

## 小山企業が埼玉総合物流センター核に一貫物流を強化

### 大手3PLと連携し、11月からアパレル共配

倉庫会社の小山企業(本社・埼玉県戸田市、小山嘉一郎社長)は、埼玉総合物流センター(埼玉県草加市)を核に一貫物流体制を強化する。11月からは、大手サードパーティー・ロジステイクス(3PL)会社と連携し、アパレル店舗向けの共同配送を本格的にスタート。内陸の集約型拠点としての機能をさらに高めるため、通関業の許可取得も視野に入れており、将来的には通関から国内配送までをワンストップで手掛けたい考えだ。

小山企業では昨年2月、埼玉総合物流センター(延べ床面積1万3000平方メートル)を開設。マルチテナント型物流施設の1フロアを賃借した同社最大規模のセンターで、集約による合理化に加え、24時間稼働可能な物流センターの機能を生かし、首都圏および主要都市への共配ルート構築を模索してきた。

11月からは、主要顧客であるアパレル専門店

へのルート配送で共配を拡充。大手3PL会社が扱うアパレル製品を埼玉総合物流センターに持ち込み、店舗に一括納品する。店舗側は、1日に複数のトラックで納品されていたのが1回で済むようになるため、作業が効率化され、トラックの積載率向上による環境負荷軽減にもつながる。

なお、小山企業では営業倉庫を軸に運送事業など周辺業務をオプションとして取り込むことで、総合物流会社としての基盤強化を図っている。取扱量ベースで65〜70%程度が輸入品であり、流通加工業務は内陸志向が強まっていることから、埼玉総合物流センターの機能をさらに充実させるため、通関業の取得準備も開始した。

女性社員が通関士の資格を取得し、同じ埼玉県有力企業である京葉流通倉庫(本社・埼玉県戸田市、箱守和之社長)の東京支店(東京都港区)に出向し、内陸型倉庫における通関業の営業のノウハウを学んでいる。既存の顧客に提案しながら、通関業務の実績を重ね、5年後には通関も含めたワンストップサービスを実現させる。